

# 福音の園だより

【第6号 二〇〇五年六月十日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

Fax 049・230・1112

## 「8020よい歯のコンクール」で表彰

六月五日(日)、川越市総合保健センターで、川越市歯科医師会主催による「歯ッピーフェスティバル二〇〇五」が開かれました。ホームドクターの歯科医師より推薦された利用者・M・Aさん(八二才)が「8020よい歯のコンクール」に参加し、表彰されました。「80才で自歯20本」のところ、M・Aさんは「82才で自歯25本」で表彰されました。

△(家族様より)

### おかあさん、おめでとう

おかあさん、おめでとう。よかったね。

ホームドクターの星原先生、ホーム長さん、受賞に際し、ご厚意いただきましてありがとうございます。母は、待ち望んだ日を心の底から喜んでいました。表彰式には、私、孫も参加し、名前を呼ばれると、ちよつと緊張していましたが、歯科医師会長さんから、立派に表彰状をいただきました。

歯を大切に、胃腸に負担をかけないことが、丈夫の秘訣だと思います。これからも、今まで通りきちんと歯磨きをしてほしいと思います。今後、母を見守ってください。

(M・U)

## 地区民生委員の声

### まあ何と明るい表情でしょう！

川越市高階地区 民生・児童委員 武内 節子

五月の心地よい風が吹いています。九十川の堤から左に歩を進めると、そこに福音の園がありました。最初に伺った時は地図を頼りに少々迷いました。初対面のホーム長様に園内をご案内いただき、屋上から望んだ広い空と秩父の山々、前を流れる小川と対岸の市街地、良い環境と感じとりました。

さて、今日は私がつい先日まで係わっていたOさんのお顔を拝見に伺いました。まあ何と明るい表情でしょう！ 入浴後とのこととさつぱりと身ぎれいです。「良かったネ」と手を握り合いました。入園させていただく前は独り暮らしでした。生活の不安と寂しさを連日の電話や自宅まで歩いて訴えに参りました。この様な状態で体力、気力が持続できると心配している中、「幸わい」が重なって福音の園への道が開けました。今、Oさんの居室に掲げられた「永住証明書」がとても輝いております。園の皆様、Oさんをお仲間入りさせて下さり有難うございました。これからは優しい時が流れていくことでしょう。近い日の訪問を約束して帰路に着きました。

## スタッフ紹介

### 長年特養ホームで働いていて

玄関に入ったとたん、花を飾り、園庭にはチューリップやビオラ、パンジー等が咲き、アットホームに感じました。長年特養ホームで働いていましたので、いつか少数の所で、ゆつたりとした気持ちで接することが出来ればというも思っていました。以前勤めて

いた時に、上司や同僚と話していた、ゆつくりとした時間を一緒に過ごせるといいなあと思っていたことが、実際に見学して知ることができ魅力を感じました。勤め始めて、毎日の予定をこなす事に必死になっていたのも、いつの間にか、温かい気持ちも忘れてしまっていたのかと、自分自身長い間、特養ホームで何をしてきたんだらうかと、目が覚める様な気持ちになりました。特養ホームとグループホームには違いがありますが、今まで経験したことを生かして、お一人おひとりの自立支援の支えになればと思っています。

(1階スタッフ・藪 雪江)

### 「希望への支援」の範囲は！

ホーム長 杉澤 卓巳

最愛の家族が認識障害(認知症、アルツハイマー症)となり、自宅での生活に限界を感じられてグループホームへの入居を決心された。そのご家族様のホームに寄せる期待は一樣ではないように思われます。

ご利用者様が日増しに落ち着かれ、ホームでの生活(環境)に順応されていくお姿に接しられることは大きな安堵感を抱かれることでしょう。けれども、穏やかな日々を送ってほしいという思いとは裏腹に、面会に訪れるご家族様を認識できなくなり、どこか他人のようにヨソヨソしくなっていく。そしてホームのスタッフに心開くのを目の当たりにされると空しさにも似た思いが去来されるのではないかと推察されます。「希望への支援」を掲げて実践しておりますが、これはご利用者様に限定されたものではなく、ご家族様をも含めた取り組みでなければならぬことをスタッフ全員で心したいと思います。ここにも「介護の質」のカギがあるように思われるからです。